

平成 26 年 11 月 4 日

軽井沢町議会

議長 篠原 公子 様

軽井沢町議会視察報告書

1 視察日程

平成 26 年 10 月 14 日（火）～15 日（水）

2 視察先及び目的

（1）宮城県 利府町

①子育て支援について

（2）埼玉県 三芳町

①子育て支援センターの取り組みについて

②就学前の心身の発達障がい児療育の取り組みについて（みどり学園）

③ファミリーサポートセンターの取り組みについて

④児童館の取り組みについて

3 視察参加者

横須賀 桃子、川島 さゆり、篠原 公子

（1）宮城県 利府町 平成 26 年 10 月 14 日（火）

◎視察目的

子育て支援について

◎視察内容（ヒアリング内容）

説明者 宮城県 利府町 子育て支援課

・経済的支援：町独自の経済的支援を実施

・待機児童の解消：民設民営による保育所の整備や町立保育園の民営化を進め、入所定員の拡大とコスト削減を実施。

（公営施設 1 箇所、民営施設 7 箇所）

- ・地域における子育て支援：在宅での子育て家庭のために人口約3万6千人の小さな自治体に4ヶ所の子育て支援センターを整備。
（公営施設2箇所、指定管理1箇所、民営施設1箇所）
- ・子育てと仕事の両立支援：地域全体で女性の多様な働き方を支援できる環境整備を図ることが重要であると考え、ファミリーサポートセンターを設置。（病児・病後児保育事業など）

◎考察

民間が運営する児童館を見学してお話を伺いましたが、民間だからこその自由な発想と想像豊かなアイデアを活かして多くのイベントを行っており、見学に行った日も小学生だけではなく中学生の子供たちも多く来館していました。これらの子育て支援策により利府町の出生率が上がり町外から子育て世代の転入が増加しましたが、町民が本当に必要な支援をしっかりと把握し実施したことは当町でも参考にすべきである。

(2) 埼玉県 三芳町 平成26年10月15日(水)

◎視察目的

- ①子育て支援センターの取り組みについて
- ②就学前の心身の発達障がい児療育の取り組みについて（みどり学園）
- ③ファミリーサポートセンターの取り組みについて
- ④児童館の取り組みについて

◎視察内容（ヒヤリング内容）

説明者 三芳町 こども支援課 森田 一美課長
児童館館長、学童保育館長、ファミリーサポート長
兼任 田中館長
三芳町立第二保育所 伊藤 和江所長

◎ヒアリング内容

三芳町は人口37,681人(平成26年)の町。昼は企業の倉庫など雇用の場があり固定資産税が入る。夜はベッドタウンとして栄え町民税も多く、今現在は不交付団体である。古くからの農村地帯でもあり循環型農業の地でもある。子育て支援に力を入れており、町立保育所が二つ、民間の社会福祉法人の保育園が三つ、その他にも幼稚園が三つある。町のホームページを開けると、子育て支援の充実さがわかる。項目は、相談、保育所、子

どもの健康、障がいのあるお子さんへ、病後児保育、サポート支援、申請の仕方など細かく表示されており、困った保護者がすぐに見てわかるように工夫されている。

「子育て支援センター」

子育ての相談を始め、なかよし広場、わくわくタイムなど様々なイベントが行われており、子育て中のお母さんの孤立化を防いでいる。子育て相談では、月から金まで午後 13 時から 16 時まで予約制で相談受けている。利用時間は 1 時間である。これとは別に個別相談を 16 時から 17 時まで受けている。

この他特に、わくわくタイムでは、児童館の休館日である月曜日を活用し、一日児童館を貸し切って 0 歳児から 5 歳児までの親子で楽しく遊んでいる。又、おでかけなかよし広場では、児童館のない区域に一ヶ月に一度出張し行事やイベント開催をしており、地域の方にも喜ばれている。その他、外に出て遊ぶ、おひさまなかよし広場も月一回行っている。

「ファミリーサポートセンター」

依頼会員が 304 人、提供会員が 97 人、両方会員が 99 人合計 500 人の会員がいる。(保険は町でかけている)

有資格者ではない、臨時職員が 3 人いて週 3 日から 4 日交代制で勤務している。活動内容では、放課後子どもクラブの迎えが 655 件と一番多く、保育所、幼稚園のお迎えが 468 件、放課後子どもクラブ後の預かりが 408 件等合計で 2,927 件の要請があった。(お迎えの交通費は別途徴収しない。) 埼玉県の事業で、「緊急サポートセンター埼玉」があり、風邪や発熱時の預かりや送迎、宿泊を伴う預かりや送迎、緊急時の一時預かりや送迎など 0 歳児から小学 6 年生まで受けている。これは、三芳町の委託事業でもある。サポーターは、公民館や児童館などで、提供会員養成講座、緊急サポ要請講座、ステップアップ講座など緊急時必要な AED などの応急手当講座や障がい児保育など各種講座を受講している。病児病後児保育施設は、ふじみの市の民間施設があり、協定を結んでいる。現在月 3 人程度利用、町では 13 人が利用している。

「みどり学園」

昭和 52 年「三芳町手をつなぐ親の会」により発足。最初は老人センターの一室を借りてのスタートだった。

就学前の心身の発達に障がい又は遅れのあるとされるお子さんの療育が

目的でできた施設。定員は15人だが、現在は12人である。

園児は、2歳児1人、3歳児1人、4歳児5人、5歳児5人の合計12人であるが、1歳児半と3歳児検診時にチェックし、保健センターにつなげている。保護者の選択肢の一つに「みどり学園」がある。

学園には、臨床心理士と言語聴覚士が非常勤でいて月に一回から二回言葉の遅れなど見て訓練をしている。学園では、遊び、服の着脱、生活、食事、排泄など手厚い保育をしている。

第三保育所、第二保育所との交流もしており、運動会、発表会などにも参加している。バス送迎があり、家の近くまで安全に送迎している。

「児童館」

三芳町の児童館は、地域の遊べる小型児童館であり、三つの児童館がある。

各児童館に職員が3人ずつおり、朝9時から午後5時までの開館で、日曜日、祝祭日の翌日と年末年始は休館日である。

様々なイベント計画があり、3児童館共通で歓迎会や、運動会を行ったり、子どもフェスティバルや新1年生に遊びの指導など子どもたちが主催で行ったり、おばけ屋敷では、自らおばけになり、1,700人の来場者があるなど盛況である。

年末に大掃除と子ども忘年会を行い大人と同じ感覚を味わったり、年度末には、お別れ会を行い、終了書、写真を撮って記念品として本人に渡している。嬉しい事に18歳以上の児童館卒業生が手伝いに来てくれ、小さい子と一緒に遊ぶ異年齢の交流ができています。近くの大学生やボランティア、企業などの応援もある。

◎（考察）

ホームページの作り方がとてもすてきで、一目で三芳町は「子育て」に力を入れている町だとわかる工夫がされていた。面積的には小さい町だが、周りに大きな市があり病児病後児保育、緊急サポート、ファミリーサポートなど広域の連携が良くなされている。

特に、「みどり学園」の取り組みは大変素晴らしく、乳幼児の早期に発達障がいを見つけ医療機関と連携しながら、学園の中で手厚くしっかり社会に順応させようと努力されている姿に感動した。担当者からは、必要に迫られてという説明だったが、始まりが老人センターの一室だったということ、そこから町で施設を保育所の隣に作り、食事、排泄、遊び、等個別活動の「育ちの中で見つけ次ぎに繋げている」点が素晴らしい取り組みである。言語聴覚士が月に何回も来園し、言葉の訓練をしている点、ここま

で考え抜き、社会に出ても集団生活ができるようにと町全体で努力されている事に頭が下がる思いがした。